

運慶展と路傍の石仏

会員 寺内慎一 (さいたま市)

先日、東京国立博物館平成館で開催されている運慶展を見学した。運慶の仏像は学生のころから大好きで迫力や写実性などに感銘して奈良や静岡県などの寺などに無い金を工面して出かけたものであった。期待に胸を膨らませて混雑の中、特に好きだった円正寺大日如来坐像などに久しぶりにご対面することが出来た。

ところが案に相違して、感動が湧いてこなかった。何だか空々しく見えた。顔が整い過ぎている、肢体なども計算し尽くされており、完璧すぎるのだ。信仰の対象として接してみても、こんなに有名で素晴らしい仏なのだから大勢の人々が拝むだろう。俺なんかの願いよりも深刻な問題を抱えた人や大事な使命を持っている人への対応で目いっぱいには違いない！

こう考えると他の仏像群に対してもみな立派過ぎて、感動するというよりも違和感と云うかある種の隔たりを感じてしまったのである。展示作品の中で一番気に入ったのは片隅の方に飾ってあった小さな木造の可愛い子犬だった……という意外な顛末の鑑賞になってしまった。

このところ、路傍の石仏などに関心をもって歩き回っていたのがいけなかったのかもしれない。地元の人たちが工面したなけなしのお金で名もない石工さんが依頼者と相談して作った石仏。上から目線の筈が、正面している顔、目鼻立ちやたたずまいからは威厳と気品は感じないが、それぞれが伸び伸びしており素朴で何とも親しみやすく心を動かされてしまうのである。儀軌に合わない庚申塔、青面金剛のまちまちスペック、願いを込めて空けられた穴だらけの地藏様、最近まで身内の人たちの講によって大事にされていた様子が覗える。

この様な石仏であれば、信仰する人間もごく少数に違いない、多分閑そうであるから頼ってくる人の願いには親身を持って対応していただいけそうである。どう見てもこちらの方が私の身の丈に合っているように思えてしまい、何だか解り易い理由で路傍の石仏が大好きになってしまった。県内に多く奉納され、人気のある円空の木造仏にさえ朴訥さ以上に作品の質(芸術性)の高さを感じてしまい、逆に違和感を覚えてしまう。吉永小百合(古いなあ)よりも糟糠の妻が素敵に見え、破れ鍋に綴蓋なんて言葉が頭に浮かんで来てしまうのである。



無着像(運慶作)



狭山市のかんかん地藏

今後のイベントスケジュール

*申込は『JUNO』に応募要項が掲載されてからお願いします。

ホームページ: <http://junosaitama.net/> ブログ: <http://hakutomobulog.at.webry.info/>

- 12月15日(金) 見学会「武蔵国分寺と横浜歴史博物館」 <前号で紹介>
- 1月10日(水) プレミアム講座 特別展「明治天皇と氷川神社」関連 <今号で紹介>
- 1月24日(水) 講演会「古代武蔵の『弓』」 <今号で紹介>
- 2月3日(土) 古道探索倶楽部(赤山街道 千住道その1) <次号で紹介>

見学会『信州浅間縄文ミュージアムと上州群馬県立自然史博物館』など

2017/10/26に33名が参加

午前中は、群馬県富岡市上黒岩の「群馬県立自然史博物館」で常設展示「地球の時代」を中心に自由見学。地球・生命の46億年に亘る進化の物語を各種の模型標本などから学習の機会を得た。特に恐竜の動態模型や海棲哺乳類であるパレオパラドキシアの骨格展示などがあり、他にも親しみの深い多数の展示に興味を惹かれた。当館からは、間近の妙義山のそそり立つ山容と遠望の浅間山が見晴せ、深まった秋の気配を堪能できた。

午後は、長野県御代田町の「浅間縄文ミュージアム」にて浅間山麓の縄文土器(焼町土器など)および浅間火山大噴火史を見学し、堤隆館長の1時間に及ぶ懇切丁寧な展示物の説明に聞き入った。特に、縄文人の生活振りにも熱弁を奮って言及されたのが印象に残った。(写真)。なお当館は浅間山の南麓にあり、間近に初冠雪の当山を仰ぎみることができた(浅間山は活火山であり、現在も噴煙をあげている)。帰路は小諸城址懐古園に立寄り、島崎藤村記念館と詩碑(「千曲川旅情のうた」)を中心に自由見学。青天白日のもと、千曲川の清流の眺めは格別。(黒澤勝利・記)



クラブ活動 今後の予定(参加者募集)

◆新春企画 一年の幸福をもたらしてくれる! 東海七福神めぐり◆

2018(平成30)年1月8日「日本の祭り研究クラブ」 旧東海道品川宿を歩きます。

品川は鎌倉、室町時代より江戸湾の重要な港として栄え、江戸時代には東海道第一の宿駅となります。沿道には由緒ある寺社が多く、古くから七福神が祀られています。幕末維新の史跡も覗きます。

《期日》2018年(平成30)年1月8日(月・祝日)10時00分~14時00分: 小雨決行

《集合》JR品川駅 中央改札出口 午前10時00分 《費用》交通費(電車等)、保険代等100円

《行程》(歩程約8km 約4時間) ①品川神社(大黒天) ②養願寺(布袋尊) ③一心寺(寿老人)

④荏原神社(恵比寿) ⑤品川寺(ほんぜんじ)(毘沙門天) ⑥天祖・諏訪神社(福祿寿) ⑦磐井神社(弁財天)

《持物等》歩きやすい靴並びに飲物・カメラ等(昼食は持参してください。途中で購入可能)

《申込み》下記の連絡先までお願い致します。

《連絡先》元木孝 TEL: 0493-54-0401 (携帯 090-2259-1673) Eメール(qqqt9x8a9@cyber.ocn.ne.jp)

◆(やや番外) 冬の武蔵野と野火止用水遊歩道を歩く◆

2018(平成30)年1月19日「まち歩き研究会」(参加自由です)

《期日》2018年(平成30)年1月19日(金) 10時00分~14時00分: 雨天決行

《集合》JR武蔵野線「新座駅」改札出口 10時前に(友の会の旗を目印に)

《費用》交通費各自 参加費用・保険代他300円 《持物等》約2時間、歩行中心の服装。飲物など持参。

《行程》駅前から親水公園→野火止用水脇遊歩道→睡足軒の森→平林寺(自由見学)→昼食(うどん屋予定)→野鳥の森→ふるさと新座館(休憩)→新座駅(希望者には志木駅まで野火止用水跡を探索散歩)

《その他》交通費(各自)、資料代300円 平林寺(自由見学)は500円。

《申込・問合せ》①FAX: 048-470-2758 ②Eメール(筑井): pu8n-tki@asahi-net.or.jp

③「ホームページ」の「申込フォーム」より送信フォームで。

明治天皇と氷川神社

明治時代の装束と調度 ～展示資料を中心に～

新春1月2日から開催の特別展は、明治元年の東幸後、早々に行われた明治天皇の大宮氷川神社への行幸を、その足跡を残す歴史資料や美術品によって明らかにします。

本プレミアム講座では、展覧会に出品されている装束類や調度を中心に取り上げ、伝統と新しい表現という、明治時代の工芸品に見られる二面性に注目しながら、それぞれの作品や資料について考えます。

講師の池田さんは、日本美術史がご専門。以前には企画展「氷川神社と大宮公園」、「平林寺」、「年中行事絵巻」などの展覧会もご担当されました。多くのご経験を通して、日本の美術工芸品を見る・知る楽しさを伝える展示を日々工夫されています。

講師 池田 伸子 氏 当館主任学芸員

とき 1月 10日(水) 午後1時半～2時半

ところ 当館講堂

ご参加無料

申込方法: 他のイベントとの混乱が生じやすいため、下記の点にご注意ください。

通常ハガキ(62円に料金改定済)に、開催日、イベント名・住所・氏名・電話番号・会員番号を明記。

締切: 1月3日までに、下記の宛先へ必着でお願いします。

〒330-0803 さいたま市大宮区高鼻町4-219 埼玉県立歴史と民俗の博物館友の会

返信はいたしません。お申込みいただければ、ご参加いただけます。会員限定ですが、ご家族、お友達にご参加いただけます。

古代武蔵の「弓」

—縄文・弥生時代から中世「弓矢とる家—武家」にかけての「弓」の話—

当地、寿能泥炭層遺跡からは縄文時代後期の「丸木弓」や「飾り弓」が、また南鴻沼遺跡からも同時代の漆塗りの弓の一部が出土しています。古来弓矢は武器のほか祭礼や神事の道具としても用いられてきました。

その弓矢について、「弓矢の発明と縄文文化」から「魏志倭人伝にある日本の長弓」、「短弓と鉄の弓（メスリ山古墳出土）」、「延喜兵部省式と木弓」、更には「万葉集に詠われる鳴弦と鞆の音」や中世の「為朝・義経の弓」にまで及ぶ弓矢に纏わるいろいろな話をしていただく予定にしています。

講師 梶山 林繼 先生

〔國學院大學名誉教授・祭祀考古学会会長〕

日時 平成30年(2018年)1月24日(水) 午後1時半～3時

場所 当館講堂

東武アーバンパークライン(東武野田線)

大宮公園駅下車徒歩5分

参加費用 300円

当日は返信はがきをお持ち下さい。

※釣り銭のないようにお願いいたします。

ご参加のお申し込みは、**往復はがき**に イベント名・住所・氏名・電話番号・会員の方は会員番号 を明記、返信面にも住所・氏名を記入の上、下記宛先まで。

〒330-0803さいたま市大宮区高鼻町4-219埼玉県立歴史と民俗の博物館友の会

締切:平成30年1月15日(水)

定員(150名)を超えた場合はお断りすることもあります。

埼玉県立歴史と民俗の博物館友の会